

## 世界遺産としての屋久島の価値

世界自然遺産のクライテリア※		推薦理由書(1992年)	IUCN評価書(1993年)	科学委員会における価値に関する意見
(vii) 自然景観	最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。	・樹齢数千年に及ぶ大径のスギが梢部分を風等により欠いた傘型を呈し、独特の面妖を見せて林立。	・小さな島の中に、中心部の山岳地帯とともに、2000m下には海岸線の突出部が存在。 ・他に類を見ない日本スギの優占する良好な生態系を有する。	・スギの原生林が、森林の景観として、例えば、カリフォルニアのセコイアデンドロンの林とくに匹敵するような価値がある。
(viii) 地形・地質	生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。	—	—	
(ix) 生態系	陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。	・高温かつ湿潤な気候の下に、日本固有種のスギが特異な形で分布。 ・本土においては通例ブナ、ナラ等の落葉広葉樹林が占めている地帯であるが、過去の寒冷な時期にこれら落葉広葉樹が南下しなかったために、針葉樹林としてのスギが現存(遺存固有)。 ・亜熱帯から亜高山帯までの植生の顕著な垂直分布、および森林の発達や多雨による保温効果等による種の拡散的な分布。	・他地域で失われつつある温帯地域の原生林という特異な遺構が存在。 ・海岸線に沿った広葉樹林、これに続く温帯針葉樹林、さらに中央部の冷帯のササ原まで広がる植生。 ・自然科学の各分野の研究—生物進化論、生物地理学、植生遷移、低地と高地の生態系の相互関係、陸水学、温帯地域の生態系の変異等—を行う上で非常に重要。	・暖温帯も含めて、温帯域において、2000m級の島嶼は屋久島だけであり、2000mの垂直の勾配があつて、亜熱帯林から温帯までの植生分布が見られるのは、学術的な価値が高い。
(x) 生物多様性	学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。	・気候、標高や垂直分布の特性から植物について多くの固有種、固有亜種、分布限定種、北限・南限種がみられ、絶滅の危機にある種も多く含む。 ・動物相について、ヤクシカ、ヤクザル(固有亜種)など多くの固有種、固有亜種がみられ、ヤクシマアカコッコ(天然記念物)、アカヒゲ(天然記念物、危急種)などの鳥類、その他昆虫類などにおいて、絶滅の危機にある種が分布。	・植物種の多様性を保持し、地域の特有性が高い。 ・哺乳類については地方固有の亜種が4種、鳥類についても4種存在するも、IUCN-RDB記載種はなし。 →クライテリアには該当せず。	・環境省レッドリスト記載種は植物で80種 ・日本の絶滅危惧種のホットスポットは、小笠原と屋久島と沖縄。この3ヶ所を守れば、半分ぐらいは保全できるというような場所。

※現在のクライテリアによる:(i)~(vi)は世界文化遺産のクライテリア。(登録時のクライテリア:(i)地形・地質、(ii)生態系、(iii)自然景観、(iv)生物多様性)